

第7期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 評価書（令和2年度下半期）

(1) 地域包括ケアシステムの推進

評価項目	分野	年間 目標値	年間 実績値	下半期 実績値	達成度
1. 地域包括支援センターの適切な運営					
①地域包括支援センター間の連携 を図る会議の開催数（回） ※年間合計	介護	13	13	7	A
		開催方法の工夫により連携体制を安定して確保することができた。			
2. 地域包括支援センターの運営に対する適切な評価					
②地域包括支援センター運営協議 会開催数（回） ※年間合計	介護	3	3	2	A
		議題の工夫により明確な意見・評価を実施することができた。			
3. 身近な地域の見守り・支えあいネットワークの充実					
③高齢者が集う場の開設数（ヶ所） ※累計値	住まい 地域	未設定	3	3	A
		新しい生活様式や地域の実態に応じた事業実施に向けた工夫が必要。			
④地域サロン等応援事業の派遣講 師登録者数（人） ※累計値	住まい 地域	36	31	31	D
		新しい生活様式下での安定した事業実施に向けた工夫が必要。			
⑤見守りネットワークの協定事業 者数（件） ※累計値	住まい 地域	70	63	63	B
		新規登録者数は伸び悩んだが、下半期においても現在の協定事業者との間での新たな取り組みにより事業内容の向上を図った。			

- A 達成できた
- B おおむね達成できた
- C あまり達成できなかった
- D 達成できなかった

総合評価

B

(裏面へ続く)

担当部署評価

地域包括支援センター関連の事業においては専門職種間での連携や評価方法の工夫によって必要な役割を果たすための環境を整えることができた。身近な地域における見守り・支え合いの取組についても工夫して実施できている項目は事業内容の向上を図ることができた。新しい生活様式においても安定した事業実施が図れるよう引き続き工夫を重ねたい。

評価委員会評価

上半期評価時に比べ、地域包括支援センターの項目についてコロナ禍においてWeb会議を活用する等の工夫で目標値を達成できており、実施内容については良好。

高齢者の集う場の項目について、上半期評価においても指摘があったとおり、次年度からは身近な地域における見守りという観点からも高齢者の集う場は広げていくという方向での検討も必要ではないか。